

2020 プリンスリーグ北海道 競技・運営上の注意事項

- 1 本大会は、原則無観客で開催致します。（一般のサポーターの方は入場できません）
 - ① 競技場周りのフェンス越しでの観戦はお控えください。（チーム選手、チームスタッフ、その家族、競技場周辺住民の命を守る活動ですのでご理解とご協力をお願いいたします）
 - ② チームは、事前にチーム分（関係者・保護者含む）の入場者名簿を作成し、マッチコーディネーションミーティングの前にご提出ください。（事前に連絡のある関係者・保護者のみ入場可能です。）
- 2 試合開始 70 分前にマッチコーディネーションミーティングを行う。チームは、メンバー表・選手証を提出し、確認を受ける。ユニフォームは、事前に節毎に決められたものを着用する。
アンダーシャツやタイツを着用する場合、次の場合のみ許可する。（チームで統一していること）
 - アンダーシャツは、シャツの各袖の主たる色と同じ色で、1色とする。または、シャツの各袖とまったく同じ色の柄にする。
 - アンダーショーツおよびタイツは、ショーツの主たる色、または、ショーツの裾の部分と同じ色でなければならない。同一チームの競技者が着用する場合、同色のものとする。
- 3 メンバー表記入に際して、出場停止を確認して提出のこと。ウォーミングアップ中の負傷等で、競技者と交代要員を入れ替える時は、主審および当該試合責任者の承認を得ること。
 - ① メンバーから外れた選手はその試合に参加できない。
 - ② メンバーから外れる先発選手が、GKの時だけ、交代要員として当該試合のメンバーに入れられる。
- 4 高体連加盟チームについては、チーム関係者を含め製造メーカーのロゴを除き着用する衣類・ビブス等に一切の広告表示を認めない。
- 5 競技者は、陸上競技場ではキックオフ6分前、その他の競技場では4分前に、指定された場所に集合して審判員より用具の点検を受ける。すべての装身具（ネックレス、指輪、ブレスレット、イヤリング、皮革でできたバンド、ゴムでできたバンドなど）は禁止されており、外さなければならない。装身具をテープで覆うことは、認められない。後半のロッカーアウトは陸上競技場3分前、その他の競技場2分前とする。
用具の点検：各チームのベンチ前で副審が実施。副審はマスクを着用。その後、所定の場所に整列する。
- 6 後半の競技開始は前半の競技開始から 60 分後とする。ただし、前半のアディショナルタイムが 5 分を超えた場合は超えた分だけ後半開始を遅らせる。
- 7 チームベンチは、大会日程表に記載されている左側のチームが、本部からフィールドに向かって左とする。
- 8 入場はWカップ方式（タッチラインからハーフェイラインに平行に入場）とし、数m入った地点で両サイドに開き、主審の笛の後、礼を行う。その後主審の左側チームが審判団・相手競技者と握手を行い、相手競技者の後ろを通り位置につく。その後もう一方のチームが審判団と握手をし、位置につく。主審はキャプテンだけを残しコイントスを行う。その際キックオフの予定時刻までボール回しを認める場合もあるので、チームはベンチにボールを用意しておくこと。また、ボール回しはフィールドの競技者のみで行う。試合終了後は、両チーム向かい合って整列し握手し、Wカップ方式で本部・観客に礼をしてベンチに戻る。チームは、速やかにベンチを空けること。

- 入場はW杯方式とするが、挨拶後の握手は行わない。但し、社会的距離（できるだけ2m、最低1m）を保つこととする。
 - コイントスは主審および両チームのキャプテンにより実施する。但し、社会的距離（できるだけ2m、最低1m）を保つこととする。
 - ピッチ上で円陣を組む場合は、社会的距離（できるだけ2m、最低1m）を保つこと。
- 9 競技者が負傷して主審が競技を停止した場合、主審の許可を得てから2名以内の医療担当者がフィールドに入ることができる。その医療担当者は、負傷の程度を判断することと負傷者の搬出を手配することだけにフィールドに入るのであり、負傷者がゴールキーパーの場合、味方競技者同士の場合、重篤な場合、ペナルティーキックが与えられ、負傷した競技者がキッカーとなる場合を除きフィールド内での治療は認めない。
- ※但し、相手競技者が警告される、または退場を命じられるような身体的反則の結果として、競技者が負傷した場合、負傷の程度の判断と治療がすばやく完了できるのであれば、フィールド内での治療が認められ、その後フィールドを離れる必要もない。
- 10 交代によって退く競技者は、主審の承認を得た後、境界線の最も近い地点から出なければならない。ただし競技者がハーフウェーラインのところから直接すみやかに、また、（例えば、安全や保安または負傷などのため）他の地点から出るようにと、主審が示した場合を除く。その際シャツを脱ぐ必要はない。交代要員は、退く競技者がフィールドの外に出た後、競技の停止中に主審の承認を得てハーフウェーラインよりフィールドに入る。
- 11 競技者の試合中の飲水は、ボールがアウトオブプレー中にタッチライン上とゴールライン上においてのみ認められる。競技者がフィールドに入場の際、ボトルの持ち込みは認めない。クーリングブレイク、飲水タイムは実行委員会及び運営委員会で判断する。

試合中の飲水

- ① 原則飲水ボトルの共用を避ける。
たとえ口が直接触れなくても唾液が飛ぶ可能性があり、感染の危険性はある
ペットボトルでのピッチレベル設置使用可（但し、スクイズボトルタイプのキャップに交換する）。但し、使用したペットボトルは必ず破棄すること。
- ② 氷水にスポンジを入れて体を冷やすことは、体を冷やすだけであれば容認される。但し、スポンジで顔を拭くことは行わない。
- ③ 選手が口を付けフタをしたボトル等をクーラーボックスに戻すことは、絶対に避ける

飲水タイム

- ① 飲水ボトルの共用を避けることから、十分な水分補給の機会が見込めないため、WBGTの数値に関係なく飲水タイムを設定し、パフォーマンス向上につなげる。
 - ② 「熱中症対策ガイドライン」に基づき、WBGTの数値が条件に達した場合は、クーリングブレイクを実施する。
- 競技規則 2020/21 p.261（参考…飲水タイム）
「選手はあらかじめラインの外に置かれているボトルをとるか、それぞれのチームベンチの前でベンチのチーム関係者から容器を受け取って、ライン上で飲水する」
⇒ 自分のポジション近くのフィールドの外にボトルを置く工夫もあるが、ベンチにボトルがある場合、チームメイトからボトルの受け渡しが基本出来ないため、個人のボトルがタッチライン近くのチームベンチに置いてあるような場合は、飲水をとるために、一時的にフィールドを離れることを許す。（飲水は、熱中症対策の一つであり、かつ現状、感染予防の観点から自らのものを他人が触れないように気を付けている。ゆえに、ボトルをとるためにフィールドを離れることもある。）

- 12 交代要員のウォーミングアップは、競技場ごとに指定された場所にてフィールド上の競技者と異なる服装で、原則としてボールを使用しないで行う。
- 13 ベンチに入ることができるのは、開催要項に定められた人数で、しかも試合開始前に氏名の届けられたスタッフ・交代要員に限られる（交代要員9名とスタッフ5名）。
※なお、テクニカルエリア内（ベンチ含む）でのあらゆる形式の電子通信機器の使用は、競技者の保護や安全に直接関係する場合、あるいは、戦術的またはコーチングの目的であれば用いることが認められるが、いかなる撮影（写真、ビデオ）も認められない。
※選手登録している者はマネージャーとしてベンチ入りを禁止する。ベンチ内においても責任ある態度と言動で行動すること。
- 14 テクニカルエリアの使用はその都度一人のスタッフのみが、戦術的指示を与えることができる。交代要員もウォーミングアップを除き所定の位置で観戦すること。
 - ベンチの選手及びチーム役員・スタッフは、マスクを着用する。但し、チーム役員・スタッフがテクニカルエリアで指示を送る際は、マスクを外してよい。
 - 競技中については、プレー及びアップ時以外はマスク着用とする
 - 不要な会話・接触は控える。
 - 高温や多湿といった環境下でのマスク着用は、熱中症のリスクが高くなるおそれがあるので、人と十分な距離（少なくとも2m以上）が確保できる場合には、マスクを外してよい。
- 15 試合球については、マルチボール方式で行うので、アウトオブプレーでボールが遠くへ行った場合は、素早く近くのボールを受け取ること。（フィールド外に出たボールが近くにある時は、自分でそのボールを取りに行く）
- 16 退場者が出た場合のその後の処置については、本大会規律委員会（荒・宮武・田中・勘七・柳元）で決定する。
- 17 怪我人等への対応はチームで行ってもらうが、緊急を要する状況が生じた場合はすみやかに本部へ連絡すること。
- 18 各開催地区協会から会場設営等の協力要請があった場合、最大限の協力をすること。
- 19 ゴールセレブレーションは、社会的な距離（できるだけ2m、最低1m）を保って実施する。
- 20 後半の選手交代は3回以内とする。但し、GKの交代については回数に含めない。
- 21 試合終了後は、自分のベンチに戻り、速やかにベンチを空けること。

競技規則は、審判員や審判指導者のために制定されているものではない。

サッカーに関わる全ての人達にとって必要不可欠なものであり、正しく解釈し、相互理解することが軋轢を生じることなく円滑に試合を進めることにつながる。